

## 詩五首：文苑

著者	隈本，繁吉，水月，哲英
雑誌名	龍南會雜誌
巻	2 1
ページ	3 5 - 3 6
発行年	1893-12-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4153">http://hdl.handle.net/2298/4153</a>

にも生ひて上にさき。石と所を争へる。壁なす岩のいや高く。落ちくる瀧の白玉は。柿坂  
むらにちりしけり。はむとも盡きじうの状は。いふともはてし繪にかゝば。金岡もが歌ひ  
あば。人丸もがあわくらばに。まゝくひ見けん人あくば。まだしも永く屈智林。くちはて  
あまし覺束あ。」

## 二十段

ろもくかゝるけききあり。世にしれざりし昔をば。何と歎かん又何と。憾みかこたんはか  
あくも。あましかりき唐土の。孔子の才すら世に逢はず。宇土の牧ある池月は。宇治の  
荒瀬の逆捲くに。敵は矢ふすまつくるとも。さもあらばあれ何のその。岩をも徹す梓弓。  
引きてかへらぬ景季を。颯と躍り超え魁の。又魁とありつるも。さて眞つ先のさゝ木ぬし。  
世に二つなく高綱の。たかきその名を揚けてころ。宇土より出てしかひもあれ。嗚呼美しの  
つくしある。清き山河ある中に。住みて學べるうちに猶。髣髴たるものありと知れ。希有  
の高綱安藝のその。大人こそいかに稀あらし。」

題藤公在朝鮮望富嶽

隈本繁吉

突破鷄林八道衝神州威武將軍鍾戰餘無或懷鄉國立馬汀沙望富峰。

牧谷橋上

全

關山流水自仙寰秋色却疑春色還誰識匆匆餘恨去續紛紅葉撲吾顏。

牧谷

水月哲英

奇石欲飛樹欲開。幾重坂路往如還。楓雲十里潺湲水。霜後嵐山髣髴間。

遊跡觀楓

楓林織錦艷於春。寂々空村風景新。忽怪朝存焚葉跡。前宵知有駐車人。

樋田洞門

水洗巖根東又西。天邊奇石是雲梯。洞門深邃殊清絕。人帶烟霞入馬溪。

批評

前號の『熊谷直實』を讀みて

馬山生

愛山一流の新文体を以て、華やかに打て出でられたる新文人小原之正君が、前號の『熊谷直實』の如きは、蓋し本會雜誌に出でたる名文の一あるべきか。吾人は人物を畫くの文を以て、作るに面白く、讀むに面白きものありと思ふ。而して讀者を益するの點にありても、人物を畫くの文は、遙に、山を畫き川を畫き若くば花鳥風月を畫くの文に超越せるものありと思ふ。吾人は茲に特に人物を畫くの文と云ふ。蓋し人物を評し人物を論ずるの文は、吾人の茲に言はんと欲する所にあらざればあり。

人物を畫く、蓋し其人物を世に紹介せんと欲すればあり。故に之を文筆に畫かんとする人物は、之を世に紹介するに足る程の價值を有せざるべからず。即ち、其人物の特質特性を發揮せざるべからず。

英語の所謂キヤラクタリスチック是れあり。若し夫れ特質特性の言ふべきものなくんば、例令巧みに其人物を畫き來るも、蓋し徒勞のみ。徒らに文筆を弄するの徒のみ。吾人は取らず。